

太字は学校選択制の課題（中村）

学校選択制によって、東京では子どもが集まらない公立学校が続出している。人気校と不人気校の二極化が進んでいる。統廃合によって地域から姿を消す学校も出てきている。特色ある学校づくりという目的に始まった学校選択制が今教育の現場に何をもたらしているか。検証します。

テロップ

一地域の学校が消えていく？～学校選択制の波紋～

アナウンサー「東京は入学生徒がゼロという学校が毎年のように出ています。東京で6年前に始まった学校選択制、自治体の中にはあえて導入しない自治体も少なくありませんが、これまで全国でおよそ200で導入。学校選択制のねらいは競争原理を導入することで、学校や先生の切磋琢磨を促し特色ある学校づくりをめざしてもらい、保護者には学校に対する関心を高めてもらうでした。競争原理の導入で公立学校の活性化を促すねらいもある。この学校選択制度の導入で学校で地域で何が起きているのでしょうか」

荒川区立の中学校の例

学校選択制が導入されて、生徒数が200人以上増加。

全校集会は体育館が満杯状態。今年の卒業式は体育館でできるのか危ぶまれている。

人気を集めた理由は、学力テストで学校別に公表したことにある。4年連続トップの成績。部活動が盛んなことも人気の理由（全国2位東京都のコンクールで金賞）。文武両道でその名が知られるようになった。この中学校では地域に積極的にPRしている。ブラスバンド部が地元の保育園で演奏会を行った。入学者を増やすのに役立つと考えている。

校長「頑張らないと生徒が減る。先生方の努力だ。」

その一方で、生徒数が激減している小学校がある。日野市のある団地。地元の学校から他の学校へいくようになった。授業にも影響。団体競技ができない。ドッジボールでチーム分けができない。保護者にも不安が広がった。「子どもが少なくなりすぎるとこの先、娘が5、6年生になったとき、どうなるのか不安。」「クラス対抗ができない。」

子どもたちを呼び戻すため新たな対策を始めるところも出てきた。荒川区立の中学校。半分に生徒数が激減。小規模校の強みを活かし、ホームルームの時間に一つのクラスに3人の教師を配置しひとりひとりの子どもに対応。先生だれとでも話をする機会を多く取り入れた。生徒に実社会の職業体験をさせることにも力を入れている。先生方が地元企業に受け入れ先を探した。地元の花屋さんで職業体験する生徒。こうした独自のとりくみが評価され20人あまり増えた。どうしたら子どもたちに選ばれるのか公立学校は今必死に生き残りを模索している。

東京大学の佐藤学さんの話

「全国的には9%程度の自治体で学校選択制が導入されているだけだが東京都は早い段階から積極的に導入した。6年たってその結果を見てみると競い合っ、それぞれの学校や教師が高まっていくというよりも、むしろ人気校と不人気校がはっきりと明暗を分けてしまう。いったん不人気校になるとどんどん生徒数が減っていくし人気校になるとどんどん生徒数が増えていく。皮肉な実態になっている。流れができてしまうと実態よりもうわさ

や評判で生徒が集中する。廃校に追い込まれたケースを見ると学校が提供する情報よりもうわさ・いじめがあるらしいよ、学級崩壊があるらしいよ、決定的なのは、あの学校は選ぶ人がいないわよ、つぶれてしまうわよといったん広まってしまうと先生方の努力は、全く機能しなくなってしまう現状。」

アナウンサー「先生方の現場ではどういう受け止め方をしていますか」

佐藤学さん「先生方の共通しているのは生き残り競争に追い立てられている。熱心にとりくむ部分はあるが、従来と違うのは、商品のように選ばれるわけですから、それまで責任の名に置いて教育が行われていたものが、サービスの過剰合戦のようになる。それが果たして本当に教師の力量を高めるものになっているか疑問に思っている。」

アナウンサー「保護者の中には、自分の子どもはいじめのない学校に行かせた。学力の高い学校へ行かせたいという支持の声も高いが。」

佐藤学さん「保護者の方は不安があるんだと思う。いじめとか低学力で悩んだ時どうすればいいのか。現在も学校選択制を導入しなくても弾力的に運用ができています。教育委員会や学校へ相談すればいいのですが、弾力的運用ができるという情報が保護者に伝わっていない。そのことが安心な所を残しておきたいとなっている。」

アナウンサー「学校選択制を進めると地域の格差の固定化、学校間格差の固定化になると懸念の声が出ているが。」

佐藤学さん「もっともな懸念だと思う。これまで学校選択制を導入したアメリカやイギリスでは、人気のある学校では地下が高騰している。そうするとそこに集中していく。貧しい人たちは外に追い出される。不人気なところは廃校になって子どもがいない。ゴーストタウンのようになって治安が悪化するか貧富差が非常に拡大してしまうことが厳然として起こっている。すぐに日本でおこるかわかりませんが長期的にみるとそういう危険性が十分あります。」

アナウンサー「自治体の中には生徒・児童の数が一定数を割り込めば統廃合の対象にする」と検討している所もあります。つまり生徒が集まらなると学校が地域からなくなる可能性がある。この現実を地域はどのように受け止めているのかご覧いただけますか。」

東京板橋区 閉口した学校のある地域

子どもたちの声が聞こえて活気のあった通りはひっそりと静まりかえっています。

地域の方の声「町が沈んでいく感じだ。学校に来なくなったから、合わなくなった。つながりが薄れた。」

地元の住人2000人を対象に行ったアンケート調査では、学校がなくなったことで不審者が増え、治安が悪化した、地域から子どもの姿が消えてとてもびしいなど閉口を惜しむ声が多数寄せられた。

去年まで、通っていた子の家族

母親も卒業生。娘が入学するのと同時に、母校の行事に家族ぐるみで参加、地域の人々と交流を深めるのに学校が大きな役割を果たしてきました。地域のお祭りに小学校の子どもたちが参加。剣玉を披露した。突然の閉校は、大切にしてきた地域とのふれあいが失われる。手作りの祭りがぼったり静かになった。さびしくなった。

生徒の減った学校を地域で支えていこうという動きが出てきた。

かつては30人入学していたこの学校も今年の新入生が5人でした。このままでは地域から学校がなくなると地元住民は危機感を募らせました。自治会長は地域の関心を学校に向けるよう働きかけた。町の活性化するうえでも、子どもたちが地元の学校へ通う方がよい。地元の自治会メンバーが集まり何ができるのか話し合った。いい学校だ、いい学校だと宣伝することが効果がある。保育園に行っているお母さんたちに、宣伝する。団地内の掲示板に学校のピーアールを行った。絵本の読み聞かせボランティアをやった。こうした活動を通して地域の人と子どもたちが声を掛け合う関係になった。登下校時の見守りボランティアも行った。地域全体で学校を見守ることで、地元の学校へ子どもをよびもどそうとした。自治会長「友だちが近いところにいてすくすくと育った方がいいだろう。」

アナウンサー「学校がなくなって、あるいは統廃合の危機に直面して、はじめて学校が地域の中のつながりにとって大変重要な役割を果たしていたことに気づいた。」

佐藤学「地域の中で子どもたちが育っている。地域の中で、親たちや市民が、教師たちと連帯して子どもたちを育てている、そういう状況がコミュニティーを活性化し、文化活動、社会活動、経済活動も活性化していく。子どもがいなくなった学校はゴウストタウン化し治安も悪くなり、あの地域の取り組みに心を打たれた。」

アナウンサー「小規模ならではよさがある。」

佐藤学さん「もともと日本の学校は規模が大きすぎる。欧米は多くても小学校で多くても150人程度、それでなければ、子どもひとりひとりのつながりも、先生方が責任を持った子どもへの対応ができない。国際学力テストナンバーワンのフィンランドでは60人、70人が当たり前になっている。東京都内の選択制を取り入れてい学校では150人をわるともはや統廃合の対象とするという乱暴なことが起こっている。」

アナウンサー「小さい学校を支えていこうとする動きも地方では出てきている。」

佐藤学さん「ドーナツ現象で廃校に追い込まれている。競争原理ではない、地域作りの特定した選択制もある。少人数の学校をサポートする新しい考え方で選択制を見直す必要がある。」

アナウンサー「学校選択制が行き過ぎた場合は地域の崩壊ということにつながりかねない」

佐藤学さん「子どもは地域と親と教師が一体となつてこそ、まっとうな成長をとげられている。」